凡例（事務局の意向）：
対応修正なし
第１回検討会で対応方針協議
第１回検討会までに対応済

**資料2-3**

# 第1回検討会事前説明指摘事項と対応方針案

| No. | 資料 | p | 提起元 | 指摘内容 | 打合せでの回答 | 担当 | 対応方針案（事務局の意向） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 【資料1】調査票案<br>【資料2】調査票記入要領 | - | 数理計画 | 調査票の質問項目の選定は適当か。 | — | 数理計画 | **現行の調査票で調査を行う方針**で進めたい。 | |
| 2 | 【資料1】調査票案<br>【資料2】調査票記入要領 | 様式2,6<br>p14, p27 | 数理計画 | (事前説明後追加)<br>「高圧ガス設備等耐震設計基準」に基づく**重要度分類**の質問の法令を更新した（**高圧ガス設備等の耐震性能を定める告示（平成30年経済産業省告示第220号）**）。また、高圧ガスタンクの耐震設計の適合状況は「**神奈川県高圧ガス設備等耐震設計基準（令和元年改正版）**」への適合を確認する質問へ修正した。 | — | 数理計画 | **修正後の調査票で調査を行う方針**で進めたい。 | 重要度分類は国、適合状況は県の基準に基づき調査 |
| 3 | 【資料1】調査票案 | 全般 | 畑山委員 | **危険物タンクの座屈評価に用いるフラジリティカーブ**について、消防庁指針では3種類しかデータがなく、現状使用できるものはうち1種類（新法）しかないことが課題である。 | 前回、H26防災アセス時点で、準特定・旧基準、旧法・旧基準、旧法・新基準（準特定・新基準）、新法、新法（補正：$\rho=0.9$）の５種類のカーブを、文献に基づき作成・使用している。 | 数理計画 | 前回施設調査との比較という面からも、**前回手法を踏襲**したい。 | |
| 4 | 【資料1】調査票案 | 全般 | 畑山委員 | アセスを実施する際には、**風水害を対象とした評価**を入れた方がよいのではないか。 | 評価対象としては**高潮による浸水**が想定されるが、基本的に津波と同じ手法で評価可能である。評価を行うとなった場合でも**調査項目として不足はない**と考えている。 | 数理計画 | 評価実施の是非はアセスを実施する際に検討する。調査項目として不足はないと考えているが、平均貯蔵率に加えて**最低貯蔵率を追加**する。 | |
| 5 | 【資料1】調査票案 | 全般 | 畑山委員 | アセスを実施する際には、**火山灰を対象とした評価**を入れた方がよいのではないか。 | 鹿児島県で降灰によるタンクの損傷を評価した事例がある。評価を行うとなった場合でも**調査項目として不足はない**と考えている。 | 数理計画 | 評価実施の是非はアセスを実施する際に検討する。調査項目に変更は加えない。 | |
| 6 | 【資料1】調査票案 | 全般 | 大谷委員 | 今後**建設予定の水素貯蔵タンク**について、LNGタンク等と同様の考え方でよいと思うが、地下タンクなどが建設されてくると扱いが少し変わってくるかもしれない。 | 調査票ではタンクの構造、地上/地下設置等を確認している。今後情報収集に努める。 | 神奈川県<br>数理計画 | 調査項目に変更は加えないが、**建設予定の水素タンクの仕様等について今後情報収集に努める**。 | |
| 6 | 【資料1】調査票案 | 全般 | 大谷委員 | CCSの広がりによる**CO2の取扱量**の増加、再生可能エネルギーの増加による**蓄電池による火災リスク**が増加してくる可能性がある。 | CO2は非可燃性ガスであり、高圧ガスとして回答があったとしても爆発などの定量評価の対象にはならないと考えている。蓄電池等についても石油コンビナートの防災アセスとは対象が異なると思われる。 | 数理計画 | 調査票の最後で自由回答の質問として追加する。 | |
| 7 | 【資料1】調査票案 | 全般 | 大谷委員 | **サイバーリスクに対するネットワークの安全性対策**の問題も入れるべきではないか。事業所への注意喚起としての側面もある。 | サイバー攻撃等による防災機器の停止といった事象は定量化することは難しいが、注意喚起となることも踏まえ、**自由回答の部分で質問を記載**することを検討する。 | 数理計画 | 調査票の最後で**自由回答の質問として追加**する。 | |